

# 人によりそい、変え合える街を

## 地域密着型の介護・医療・福祉のサービスを

国は、介護保険から介護予防をはずし、自治体に「丸投げ」してきました。そのため市の責任はますます重くなります。

直近の国勢調査では、南区は市内で最も高齢化がすすんでいます。

年をとっても暮らし続けることをサポートするために、小規模多機能型居宅介護事業や、医療・福祉の必要な支援につながる、地域密着型のサービスの拠点を市内にきめ細くつくり、充実させていくことが急務です。

要介護状態が改善されるように、高齢者によりそい、がんばっている人たちを支える市政をめざします。



小規模多機能の介護施設でおこなわれた餅つき大会に参加しました。

## 商店街を活かして明るい街に

商店街を地域の資源として活かし、防犯灯で街を守るのみならず、地域づくりの拠点にしましょう。「買い物難民」対策も、先進市を例に実現をめざします。

フィンランドでは古くから国が実施している、出産を控えた女性に贈られる箱いっぱいのプレゼント「マタニティーパッケージ」があります。

相模原でも、地域の子育て支援になる「マタニティープレゼント」を商店街と行政とタッグを組んで実施することを提案します。

少しの予算とたくさんの知恵で街を明るくできることはまだまだあります。



## 子どもと若者が元気に暮らせる街に

放射能の被曝から子どもを守るために、給食の測定を続ける市にエールを送るとともに、市の測定能力を、市民の声を聴き、広く活用していくことを提案していきます。

また、20代、30代の若者の市外への転出が多い相模原市では、若い世代が住み続けていけるよう、増えている空き家の活用もコーディネートする政策が必要です。

出産から子育てまでをサポートする拠点も住宅地や商店街にこまかくつくるよう進めていきます。



## 用が足りる区役所に

政令市になってから「行政が遠くなった」、「区役所は近くにあるけど、本庁に行かないと用が足りない事が結構あって大変」、こんな声を聞きます。

区役所には、少しずつ役割機能が整備されてきているものの、まだ不十分です。

道路や都市計画などの行政関係の用事も区役所で完結できるように提案します。

## 地産地消の再生エネルギーを

相模原市は、相模川や緑区などの自然を活かせば、小水力や太陽光などの電力をつくる潜在的可能性を持っています。

課題である蓄電機能への助成などをサポートすることで、大手電力会社の原発や巨大送電網に頼らない地産地消型の再生エネルギーをもっと創りましょう。

